

日本共産党

ひめだ高宏

NO. 31

08. 8. 6

衆議院選挙勝利へ意気高く

日本共産党和歌山市南ブロック後援会が総会開催

7月27日(日)和歌浦健康館で、会場いっぱいの人参加者で熱気あふれる総会と親睦会が開かれました。

総会では、衆議院和歌山1区、近畿ブロック比例予定候補・くにしげ秀明さんから「後期高齢者医療制度が始まり、ガソリンや食品などのあいつぐ値上げ、消費税増税の動きなど、国民の生活、福祉がどんどん悪



ひめだ高宏です

総会とあいつ、親睦会とあいつ

くされておソ、こんな政治は許せない、早くやめさせようの声が満ちあふれ、この声が政治を動かしています。衆院選で日本共産党を大きくしてください。みなさんの願いを叶えるために

がんばります」と力強いあいさつがありました。また藤井健太郎県会議員と、ひめだ高宏さんから、県政、市政の状況と報告、さらにがんばる決意が表明されました。そして、後援会活動の経過と方針、役員選挙案が承認され、衆議院選挙勝利のためがんばる決意が満ちあふれた総会となりました。

食事のあとの親睦会では、すばらしいバンド演奏と希望者による生演奏にあわせ、た歌の熱唱、4人の女性のみねさんによるフラダンスも披露され、楽しくにぎやかな親睦会になりました。

(和歌浦・津野 実)



日本共産党創立86周年記念講演・志位和夫委員長

正義と道理に立つものは未来に生きます

パンフレット、50円販売中

購入希望者は 問い合わせください

こんにちは
 県会議員の
ふじい健太郎です。
 (その220)

全国各地で約35万人が暮らす雇用促進住宅を、廃止する動きが始まっています。雇用促進住宅は国の独立行政法人雇用・能力開発機構がもつ公的住宅で、雇用保障の保障料で建築し、家賃収入のみで運営されています。

県内では、16の市町に5棟あり、1467人の方が入居されています。和歌山市では紀三井寺の住宅に123人が暮らされています。

機構は今、各自治体に、今年度末までに譲り受けるかどうかの問い合わせを行っており、回答がない場合や民間に売却できなかった場合は、平成33(21)年度までに廃止する方針です。

小泉構造改革による規制緩和・民間開放の一つとしての公的住宅の廃止ですが、福田内閣で計画を前倒しして、廃止を促進しています。来年度は県営・市営住宅の家賃も改訂されます。すまいの保障は行政の大事な仕事のはずです。



ふじい健太郎 議員
 県議会

市議会 だより ごみ収集有料化、22日に答申?!

昨年11月、市長から「ごみの有料化について」諮問を受けた和歌山市廃棄物対策審議会(市議、学識経験者、市民団体代表、廃棄物処理業者、市職員の14人で構成。日本共産党の森下さ

昨年11月、市長から「ごみの有料化について」諮問を受けた和歌山市廃棄物対策審議会(市議、学識経験者、市民団体代表、廃棄物処理業者、市職員の14人で構成。日本共産党の森下さ

2008 戦争展わかやまで見つけたもの

8月2日(土)市民生協組合員ホールで開かれていた「戦争展わかやま」を私

ひめたも見に行きました。戦争中のくらしなどの展示が印象的でした。

こんにちは 日本共産党



福田首相が、日、内閣を改造しました。その夜の会見で首相は「生活改善を実感できる政策の実現を重視した」と、改造の考え方をのべました。

会場で初(52)年に憲法普及会が発行した「新しい憲法 明るい生活」という冊子の復刻版を売っていました。次の文章は、その冊子の憲法9条の説明です。

◇もう戦争はしない

私たち日本国民はもう二度と再び戦争をしないと誓った。(第9条)

これは新憲法の最も大きな特色であって、こ水ほどはっきり平和主義を明らかにした憲法は世界にもその

あまりにも明白い説明です。改造にもなって、政策を変えるという表明はありません。会見では「消費税なしで財政再建はできない。国民が安心できる社会保障制度も成り立たない」といふなど、増税の姿勢をあらさまにしました。

高齢化などによる社会保障費の自然増分の2千2百



くにげ 秀明 (衆院1区・比叡)

億円のカットを来年度も強行し、後期高齢者医療制度は「円滑な運営」をすすめる方針の福田内閣。「生活改善の実感」など、この国の話か、といったくなります。



例がない。

私たちは戦争のない、ほんとうに平和な世界をつくりたい。このために私たちは陸海空軍などの軍備をふりすてて、全くはだか身となって平和を守ることを世界に向かって約束したのである。わが国の歴史をふりかえてみると、いままでの日本は武力によって国家の運命をのびそうという誤った道にふみ迷っていた。殊に近年は政治の実権を握っていた者たちが、この目的を達するために国民生活を犠牲にして軍備を大きくし、ついに太平洋戦争のよ

うな無謀な戦いをいどんだ。その結果は世界の平和と文化を破壊するのみであった。

しかし太平洋戦争の敗戦は私たちを正しい道へ案内してくる機会となったのである。

新憲法ですべての軍備を自らふりすてた日本は今後「もう戦争はしない」と誓うばかりでは足りない。進んで芸術や科学や平和産業などによって、文化国家として世界のノ等国になるよう努めなければならぬ。それが私たち国民の持つ大きな義務であり、心からの希望である。

世界のすべての国民は平和を愛し、2度と戦争の起こらぬことを望んでいる。私たちは世界にさきかけて「戦争をしない」という大きな理想をかかげ、これを忠実に実行するとともに「戦争のない世界」をつくり上げるために、あらゆる努力を捧げよう。これこそ日本の理想であり、私たちの誓いでなければならぬ。